

2025年9月号 柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2024 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

9月号 柳沢プログラム

9月の運動療育

- | | |
|----------------|----------------------|
| 【基礎】 跳び箱の上を移動 | ▶ 【発展】 跳び箱跳び移りジャンプ |
| 【基礎】 コウモリ | ▶ 【発展】 コウモリ握手 |
| 【基礎】 新幹線クマ | ▶ 【発展】 雑巾がけ&ジグザグ雑巾がけ |
| 【基礎】 積み木拾い | ▶ 【発展】 積み木を拾う |
| 【基礎】 グーパーウシガエル | ▶ 【発展】 カエルの足打ち |
| 【基礎】 アヒル | ▶ 【発展】 つま先意識アヒル |

9月のコラム

- | | |
|------------------------|---------------------|
| <u>運動プログラム応用アレンジ</u> | ▶ 股下ボーリング |
| <u>作業療法士による発達支援コラム</u> | ▶ 対人関係に悩むお子さんへの支援 |
| <u>こどもを守る安全対策だより</u> | ▶ 元気に夏を楽しむために |
| <u>アクティビティ紹介</u> | ▶ 手作りの「夏祭り」 |
| <u>職員インタビュー</u> | ▶ ことのは4号館 言語聴覚士 S先生 |



9月の運動療育

基礎編 跳び箱の上を移動（低い→高い、高い→低い）

1. 跳び箱を縦に2台用意しましょう。
高さは1段と2段です。
2. 2つの跳び箱は15cmほど離して設置しましょう。
3. 低い跳び箱に乗ったら、高い方の跳び箱に移動しましょう。
4. 慣れてきたらジャンプして移動しますが、初めのうちは
ゆっくりとまたいで移動するようにしましょう。



⚠ 気をつけるポイント

- 慌てて移動すると落下して怪我をする恐れがあります。
フラフラせず、しっかりと着地するとカッコイイという動機付けをしましょう。
- いっせいにスタートすると、押したり押されたりして怪我をする恐れがあります。
一人ずつスタートするように大人はコントロールしましょう。

養われる力

- ◆ 高所感覚：高い位置に乗れることで高さに対して慣れる
- ◆ 身体のコントロール：跳び箱に乗る、移動するという動きに慣れて、跳び箱というものに親しむことができる
- ◆ バランス力：前後、左右のバランスをとりながら限られた足場でもフラフラしない

教室職員様
専用QRコード



発展編 跳び箱跳び移りジャンプ

1. 1段か2段の跳び箱を並べましょう。
跳び箱が複数無い場合は、丸めたマットなどでも良いです。
2. 跳び箱を並べたら、その上をジャンプしていきましょう。
3. 慣れてきたら、少しずつ跳び箱の間隔を広くしていきましょう。
4. 着地をするときには、両足を揃えてポーズをとるようにしま
しょう。



⚠ 気をつけるポイント

- スピードを競ってはいけません。
助走をつけるとスピードを競ってしまいますので、助走はつけないようにしましょう。
- 怖がる子には、大人が手を取り並走してあげましょう。
このとき、ジャンプのタイミングに合わせて大人は手を持ち上げますが、お子さん自身が腕に力を入れていないと脱臼をしてしまうことがあります。
無理にお子さんを持ち上げようとしないで下さい。
あくまでも、お子さんのジャンプに合わせて補助をする程度にしましょう。

養われる力

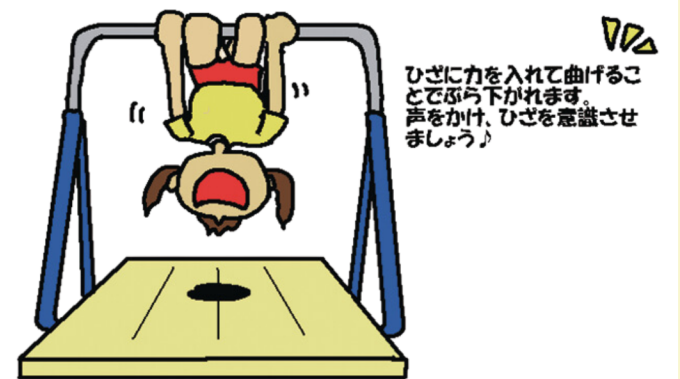
- ◆ バランス感覚：フラフラしないで跳び箱の上を跳んでいくことができる
- ◆ 高所感覚：腰が引けずに、姿勢を高くしてジャンプしていくことができる
- ◆ 空間認知：跳び箱までの距離を正確に把握して、安定して移動していくことができる

教室職員様
専用QRコード



基礎編 コウモリ

1. 鉄棒にぶら下がったら、足を持ち上げて鉄棒に膝をかけます。
2. 自分で膝をかけられない子が多いと思いますので、
大人はお子さんの足を持って膝が鉄棒にかかるよう
補助をしてあげましょう。
3. 逆さまになるのが怖い子は、無理をして行わなくても
良いです。逆さま抱っこなどをお家で繰り返し行うように、
保護者の方をお願いして下さい。



⚠ 気をつけるポイント

- 自分で膝をかけられない子に大人が補助をしますが、このとき大人は片方の手でお子さんの手首を押さえてもう片
方の手で足を引き上げ膝をかけるようにして下さい。
両手で足を持って鉄棒に膝をかけようとする、お子さんの握力が限界に達したとたん、頭から落下してしまい危
険です。
- コウモリになったら、首を上げて地面を見るようにしましょう。
顔がしっかりと上がっていないと、逆さの感覚を身につけることができません。下のマットにポイントを記した
り、イラストを置いたりして、しっかりと地面を見られるよう目印をつけましょう。

養われる力

- ◆ 逆さ感覚：逆さまになることに恐怖心を抱かない
逆さまになっても、パニックになって手を離すことがない
- ◆ 身体面：足を鉄棒にかけるときに必要な腹筋の力が十分に備わっている
鉄棒の逆上がりでも大切なこの力を動きの中で養うことができる
- ◆ 空間認知：鉄棒にぶら下がった状態で、自分の膝をかけるときにどのあたりまで足を上げれば
膝が掛かるのかを理解して動くことができる

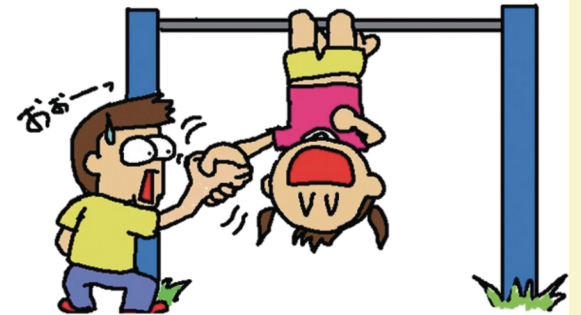
教室職員様
専用QRコード



発展編 コウモリ握手

1. コウモリに変身したら、手を離して握手をしましょう。
2. 大人は、片方の手で必ずお子さんの手首を持つようにしましょう。
落下したときに頭からの落下を避けることができます。
3. 手を離すのが怖い子は、無理をして手を離す必要はありません。
4. 握手をする高さが高くなると、難易度が高くなります。
位置を変えて難易度をコントロールしましょう。

前に立っている人と握手ができれば、2人でコウモリをして、
隣通しで手をつないでみるのもチャレンジしてみましょう♪



⚠ 気をつけるポイント

- お子さんが手を離すときに、落下してしまうことがあります。
この時期のお子さん達の場合、他の学年に比べてかなり高い確率で落下します。
常に落下に備えた補助をするようにしましょう。
- 補助は大人が片方の手で、お子さんの手首を持つようにして行います。
- 足をかけられない子の場合、大人が補助をして膝をかけてあげますが、このような子は無理に手を離して握手をする
必要はありません。怖がっていなければ握手まで行って良いですが、多くの子は手を離せず硬直していることが多い
ので、まずはコウモリの逆さ感覚に慣れることを繰り返し行いましょう。

養われる力

- ◆ 逆さ感覚：逆さまの状態になって手を離しても、怖がらずにいられる
- ◆ 懸垂力：足を持ち上げるときに、一瞬だけ腕で全体重を支えることになる手は猿握りでも
構わないので、しっかりと体重を支える力が備わっている
- ◆ 空間認知：握手をする際に、大人の手的位置を把握して自分の手を伸ばすことができる

教室職員様
専用QRコード



9月の運動療育

基礎編 新幹線クマ

1. ビニールテープなどで線路を作成したら、その上を新幹線のように速いクマさんで移動しましょう。
2. 線路は、20センチほどの幅で作成しましょう。
3. 線路は1本ではなく、2～3本作成しましょう。
4. 大人の「よーい、スタート」の掛け声とともに、新幹線のクマさんで線路を走ります。
1本目の線路を走り終わったら素早く切り返して、2本目、3本目の線路を走ります。

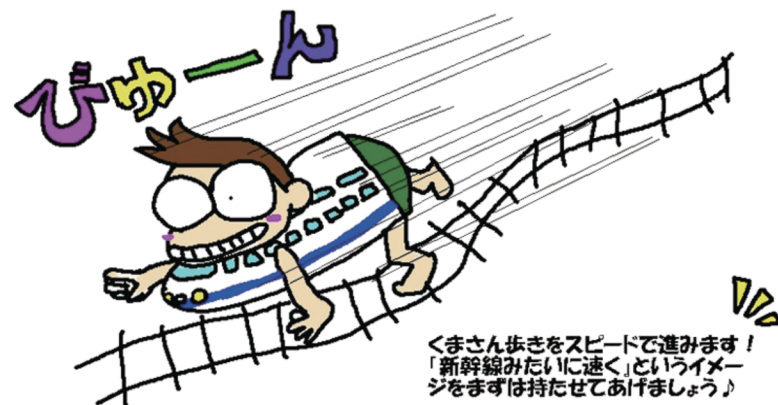
⚠ 気をつけるポイント

- クマ歩きができる腕の力があることが前提の遊びです。
クマ歩きが身に付いていない場合は、腕の力が不十分なため顔から転んでしまう子が多いでしょう。
クマ歩きを日常的にやってきていない場合は、無理をして新幹線クマを行わず、特急クマ、快速クマくらいから始めましょう。

養われる力

- ◆支持力：腕で身体を支えることができる
- ◆身体のコントロール：腕と足をバランスよく動かし、スムーズに進むことができる
- ◆バランス力：左右のバランスをうまくとって、速く進むことができる

教室職員様
専用QRコード



発展編 雑巾がけ&ジグザグ雑巾がけ

1. クマさんの姿勢で雑巾がけを行いましょう。
一般的な雑巾がけです。
2. 手をパーにしたら、顔を前に向けて進みましょう。
3. ジグザグのコースを作り、直線方向だけでなく、切り返しを入れながら雑巾がけをしてみましょう。
4. コースの作り方としては、ジグザグ、1周まわる、切り返しといった動きを取り入れてみましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 前を見ないで雑巾がけをする子がいるので、しっかりと前を見て行うようにしましょう。
- コースが狭いと、戻ってきた友達と衝突してしまう危険があります。
コースを広く作るか、スタートする人数を制限するなどして、衝突を回避しましょう。
- 窓ガラスがあるのを知らずに、衝突してしまうことがあります。
雑巾がけをしていてガラスに衝突する危険がある場合は、マットでガラスを保護するなど安全面への配慮を欠かさないようにしましょう。

養われる力

- ◆空間認知力：コースを作って雑巾がけをすることで、障害物までの距離や位置を把握することができるようになる
- ◆バランス力：手だけ、または足だけに体重をかけるのではなく、手と足にバランスよく体重を乗せて移動することができる
- ◆身体コントロール：素早く曲がったり、切り返しをすることができる

教室職員様
専用QRコード



基礎編 積み木拾い（綱渡りの途中で）

1. 大縄跳びのロープなどを床に置き、その周りに積み木やマーカーコーンなど拾えるものを置いておきます。
2. ロープの上を綱渡りのように歩きながら、途中で積み木を拾います。
3. すべて拾ってロープの端まで行ったら成功です。

⚠ 気をつけるポイント

- 綱渡りということを意識させ、ロープから落ちないようにしましょう。
- しゃがんだときにロープから落ちやすくなるので、落ちないようにしましょう。
- どんな時に落ちやすいのかお子さん達に伝えるために、大人は良い例と悪い例をしっかりと見せるようにしましょう。
- 拾う積み木は1個から始め、だんだん増やしていきましょう。

養われる力

- ◆バランス力：左右のバランスをとりながら、積み木を拾うことができる
- ◆身体感覚：ロープの位置を感じながら、落ちないように慎重にしゃがんだり立ったりすることができる

教室職員様
専用QRコード



発展編 積み木を拾う（色、数、順番を指定する）

1. 大人の指示した通りに、ロープを渡りながら積み木を拾ってきましょう。
2. 色を指定する、数を指定する、順番を指定するといったように、簡単なルールから始めましょう。
3. 慣れてきたら、上記のルールを複合的に出しましょう。
例えば、「3つ目の黄色い積み木を持ってきて」など。

⚠ 気をつけるポイント

- 最初から難しい問題を出すとお子さん達は飽きてしまいますので、まずは簡単なものから出題しましょう。
- 早く取ってくるのではなく、しっかりと声を聞いて正確性を意識させるようにしましょう。
- 積み木だけでなく、数字を書いたカードなどを使っても良いでしょう。
- コースは短いものから長いものへと変えていきましょう。

養われる力

- ◆バランス力：バランスをとり、しゃがむ、立つの動作がスムーズに行なえる
- ◆跳躍力：足を揃えて、しゃがんだり、立ったりすることで脚力を養う

教室職員様
専用QRコード



9月の運動療育

基礎編 グーパーウシガエル

- 1.手と足がそれぞれ違う動きをします。
手がグーの時、足はパー。
手がパーの時、足はグーになります。
- 2.初めのうちは移動せず、その場でやってみましょう。
- 3.手をグーでついたら、足をパーにするように
声掛けをしましょう。
- 4.次に、「手をパーにして！」「できたら、足をグーにする！
せーの、グー！」というように順を追って声掛けをして
あげましょう。



⚠ 気をつけるポイント

- 初めから上手にできる子は少ないです。順を追った声掛けをしてあげましょう。
- 初めから移動しながらやろうとすると、ほとんどの子ができません。
しっかりと動きを理解した上で、移動しながら行うようにしましょう。

養われる力

- ◆ 身体コントロール：手と足を別々に動かすことができる
- ◆ 支持力：腕にしっかりと体重を乗せて行うことができる
- ◆ 空間認知：手と足の位置を把握しながら動くことができる

教室職員様
専用QRコード



発展編 カエルの足打ち（1回～2回）

- 1.カエルに変身したら、足打ちをしましょう。
- 2.まずは1回からで良いので、
腕に体重を乗せて足をパチンッと叩きましょう。
- 3.このとき、顔が下を向いていると足を高く上げることができません。
しっかりと顔を前に向けて行うように声掛けをしましょう。
- 4.目線は、手を着いている位置よりも15cmほど
前に置くようにすると良いでしょう。
- 5.慣れてきたら、足打ちをする数を2回、3回と増やして
いきましょう。2回出来れば合格です。



⚠ 気をつけるポイント

- 初めから足を高く上げようとすると、ひっくり返ってしまうことがあります。
慣れるまでは小さく1回だけ足を叩けば良いでしょう。
- 足を高く上げすぎて後方に（背中から）倒れてしまう危険があるので、最初はマットなどの上で行うと良いでしょう。

養われる力

- ◆ 支持力：腕に全体重を乗せても、安定した姿勢を保つことができる
- ◆ 逆さ感覚：頭が下、足が上という日常とは違う感覚にも、怖がることなく足打ちができる
- ◆ 身体コントロール：自分では見えないところで、足打ちをすることができる

教室職員様
専用QRコード



基礎編 アヒル

- 1.しゃがんだら、足を大きく開いて踵（かかと）を
地面につけて歩きましょう。
- 2.足が開けていない子は、踵が浮いてしまいます。
しっかりと踵をつけられるようにしましょう。
- 3.歩くときは、踏み出した足に全体重を乗せるようにして
歩きましょう。
お尻を振りながら歩くと、アヒルらしくなります。



腰を低くしたまま歩けるかがポイントです。

⚠ 気をつけるポイント

- しっかりと説明をしないと、低い姿勢になってしゃがみだけの遊びになってしまいます。
踵をしっかりと地面につくこと、片方の足に全体重を乗せてお尻を振りながら歩くことの見本を見せながら
教えてあげましょう。
- この時点で足が開けない子は、開脚跳びなどで苦労するのでしっかりと足を開いて進めるようにしておきましょう。

養われる力

- ◆ バランス力：踏み出した足に全体重を乗せるので、必ずどちらかの足に体重が乗っています
バランスが悪いと、ヨロヨロと倒れてしまいます
足の親指にしっかりと力を入れて、まっすぐに歩けるようにしましょう
- ◆ 身体面：姿勢を良くしなければ上手に歩けません
目線を高くするために、背筋を伸ばして歩くことができる
- ◆ 身体コントロール：足（太ももの付け根）を大きく開いて歩くことができる

教室職員様
専用QRコード



発展編 つま先意識アヒル

- 1.アヒル歩きができるようになったら、
つま先で歩いてみましょう。
- 2.足を大きく開いて、お尻を振りながら歩くのは
普通のアヒル歩きと変わりません。
- 3.左右のバランスだけでなく前後のバランスも取りにくく
なるので、足の親指にしっかりと力を入れて
歩くようにしましょう。



⚠ 気をつけるポイント

- アヒル歩きができない状態でレベルを上げようとすると、
中腰であるいてしまうことがあります。
まずはアヒル歩きがしっかりできるようになってから、つま先歩きに取り組みましょう。

養われる力

- ◆ 脚力：片方の足に全体重をのせることで、太ももや腰の筋力を養う
- ◆ バランス力：左右の足を交互に前に出し、そこに体重を乗せて歩くため、体重移動を素早く
行わなければならない前後左右のバランスを上手にとって進むことができる
- ◆ 空間認知力：バランスをとりながらまっすぐに進むことができる

教室職員様
専用QRコード



運動プログラム 応用アレンジ

こどもプラス直営教室で実施している運動遊びをご紹介します。
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

股下ボーリング

- 何人で遊ぶ？** 1人から遊ぶことができます。
- 何を使って遊ぶ？** ボールとボーリングのピンを使用します。
ピンの代わりに、ペットボトルやトイレットペーパーの芯などでも代用できます。
- どこで遊ぶ？** 教室、お家の広いスペースで座布団や布団などを使って遊ぶことができます。

養われる能力

逆さ感覚 ➡ 逆さ感覚を楽しく体験しよう

逆さになる感覚を楽しく体験でき、鉄棒運動（前回り降りなど）やマット運動（前転・後転）に繋がる力を養います。
逆さになることに不安のあるお子さんも、両足をしっかり地面につけた状態で体験することで、安心して取り組みます。

力加減 ➡ 力のコントロールを育てる遊び

ボールを転がす際に、方向・速さ・強さをコントロールする力が求められます。
これは「固有覚」と呼ばれる感覚の育ちに関係しています。

⚠ 気をつけるポイント

- 難易度が高すぎると、お子さんのやる気が下がってしまうことがあります。
お子さんの様子を見ながら、ピンとの距離を調整したり、段ボールやプールのスティックでレーンを作って遊んでみましょう。
- 逆さ感覚を楽しむ遊びですが、長時間うつむき姿勢になるのは避けましょう。
お子さんの体調や様子を見ながら、無理のない範囲で行なってください。

運動の説明

1 ピンを置いて反対を向いて立ちます

ボールを転がす前に、ピンを設置します。
その後、ピンに背を向けて立ち、足を肩幅に開いて構えます。



2 股下からボールを転がします

股の間からピンを目がけてボールを転がします。



3 ピンを倒せたら成功です！

お子さんの様子や技術に合わせてボールを転がす位置や距離を調整してください。



4 【難しい場合】 股下でハイタッチをしてみましょう

ボールを転がすことが難しい場合は、股下で手をハイタッチしてみましょう。そのほかにも、握手やじゃんけんなど、体の動きを取り入れた遊びがおすすめです。



5 【簡単な場合】 股下でキャッチボールをしてみましょう

2人で向かい合い、ボールを股の下から転がし合うキャッチボールに挑戦してみましょう。



作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

対人関係に悩むお子さんへの支援

療育の現場で、「一人で過ごすことが多い」「周囲の子に関心がないように見える」と感じたことはありませんか？
今回は、そうしたお子さんに見られる特性と、支援の方法について、作業療法士の視点からお伝えいたします。

背景にあるもの

「人に興味が向かない」「人と関わろうとしない」といった様子には、自閉スペクトラム症（ASD）の特性が関係している場合があります。

ASDの特徴の一つに、相手の気持ちを理解することが難しいという傾向があります。

- ・ことばによるやりとりが難しい
- ・表情や視線、ジェスチャーなどの非言語的サインが読み取りにくい
- ・相手の気持ちを推測することが難しい

また、視点の切り替えが難しいため、「自分の見ているもの＝相手も同じように見ている」と思い込んでしまう傾向もあります。

例として、相手に手を振る時も、相手に対して自分も自分の手のひらを向けたままで手を振ってしまうことがあります。

これは、相手の視点を想像することが難しいという特性の一例です。

特性を「強み」として活かす

ASDのお子さんには、特定の物への強い関心や集中力がみられることがあります。

この「こだわり」や「好きなこと」は、視点を変えれば「得意なこと」でもあります。

たとえば、絵が得意、国語は苦手だけど数学は得意（数字に強い）、電車の名前をよく覚えているなど、「好きなこと」や「得意なこと」を見つけて、そこから自信や社会性を育んでいくことが大切です。



正確な理解のための診断と評価

特性をより正確に理解するためには、医療機関での診断や評価が役立ちます。

診断や評価には、以下のようなツールが使用されます。

- ・ADOS-2（自閉症診断観察スケジュール）
- ・ADI-R（自閉症診断面接）
- ・PARS（自閉スペクトラム症評定尺度）
- ・サリーとアン課題（心の理論を測る課題）

必要に応じて、医療機関に相談することも検討してみてください。

TEACCH（ティーチ）プログラムによる支援方法

ASDの特性に合わせた支援のひとつに「TEACCHプログラム」があります。安心して活動できるよう、環境やスケジュールを整理・視覚化する支援法です。

1 物理的構造化

落ち着いて活動できるように、活動の目的ごとにスペースを分けて整理します。

- ・作業に集中できる場所
- ・スケジュールを確認できる場所
- ・気持ちを落ち着けられる場所
- ・休憩や切り替えのための場所

2 個別スケジュールの提示

「今やること」と「次にやること」を絵カードや文字で示すことで、活動の流れが分かりやすくなり、見通しを持ちやすくなります。

お子さんの理解に合わせて、わかりやすい方法で提示することが大切です。

- ・ホワイトボードに絵カードを貼る
- ・「今」「次」の活動を見える化する
- ・タイマーで始まりと終わりを知らせる

3 ワークシステムの明確化

活動の目的・手順・量・終了条件を具体的に伝えます。作業の見通しを持たせることで安心感や達成感に繋がります。

例：梱包作業の場合

- ① 何をする？ → 梱包作業
- ② どれだけやる？ → 10個
- ③ いつ終わる？ → タイマーが鳴ったら
- ④ 終わったら？ → 片付け

4 視覚的構造化

感情や希望を伝えやすくするために、事前に伝える手段を用意しておきます。視覚的なツールを取り入れることで、ことばがなくても気持ちを表現しやすくなります。

- ・感情カードや希望カード
- ・絵カードを使い、自分の気持ちを表現できるようにする

5 操り人形ごっこ

- ① 大人が操り人形になったつもりで、こどもの前でいろいろなポーズを取ります。
- ② こどもは、それを見て同じポーズをまねっこします。
この時、操り人形役の人の視点を考えて、同じ動きができるかどうかポイントです。
もし動きの模倣が難しい場合には、大人がこどもと同じ方向（背中を向ける位置）に立つと、より理解しやすくなります。
- ③ あえて左右反対の動きに挑戦してみるのもよいでしょう。
（例：右手を上げたら左手を上げるなど）



今回は、「人の気持ちが分かりにくい」「対人関係が苦手」といったお子さんの特性について、背景や支援の考え方、実践方法をご紹介しました。

お子さん一人ひとりの特性や得意なことに寄り添いながら、楽しく、無理のない方法で「人と関わる力」を育てていくことが大切です。

今後も本コラムでは、作業療法士の視点から、発達支援に役立つ情報をわかりやすくお届けしてまいります。

次回のコラムも、ぜひご覧いただけたら幸いです。

参考文献

TEACCHプログラム研究会 <http://www.teacchken.com/>

こどもを守る 安全対策だより

安全対策だよりでは、お子さんの安全を守るために教室や家庭で気をつけていただきたいポイントを季節や時期に応じて不定期でお届けいたします。

元気に夏を楽しむために

～熱中症と水の事故からお子さんを守る～

熱中症を防ぐために

気温や湿度が高くなる夏は、こどもが熱中症になりやすい時期です。自分の体調変化に気づきにくいお子さんも多いため、周りの大人の気づきや声かけがとても重要です。

- ▶▶ 喉が渇く前にこまめに水分補給をさせ体調の変化に早めに気づく
- ▶▶ 暑い日はできる限り室内や日陰で過ごし外出するときは帽子と飲み物を持たせる
- ▶▶ 「熱中症警戒アラート」が出ている日は外遊びを控える



水遊びの事故

夏は水にふれる機会が増えますが、少しの水でも事故につながるおそれがあります。とくに小さなお子さんは、急な行動や体調の変化に気づきにくいので、まわりの大人の見守りや声かけがとても大切です。

- ▶▶ 発熱やだるさがないか肌に赤み・かゆみ・湿疹などが出ていないかをよく確認する
- ▶▶ 少量の水でも事故の危険があるため大人がすぐそばで目を離さずに見守る
- ▶▶ 川や海など水が深い場所ではライフジャケットを身に付ける



出典

こども家庭庁 教育・保育施設等におけるプール活動・水遊びの事故防止 及び熱中症事故の防止について <https://x.gd/t4qTN>
こども家庭庁 みんなで見守り「こどもの熱中症」を防ぎましょう！ <https://x.gd/p86Rp>
公益財団法人日本ライフセービング協会 守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全Swim & Survive <https://x.gd/NLgII>

ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

お子さん達が企画・運営！手作りの「夏祭り」

今回は、こどもプラス塩田教室で行なわれた「夏祭り」の様子をご紹介します。

活動の企画から準備、当日の運営までをお子さん達が主体となっていく、夏の思い出となる素敵なイベントになりました。

夏祭りのスタートは“話し合い”から

夏休みが始まる前、「どんなことがしたい？」とお子さん達に話し合いの場を設けたところ、「夏祭りがしたい！」という声が多く上がりました。

話し合いの結果、夏休み最後の水曜日に夏祭りを開催することが決定し、そこからはイベント成功に向けて、お子さん達が協力しながら準備を進めていきました。

準備もお子さん達が主役

屋台の内容や予算、値段の設定について話し合い、お店に下見に行くなど、本格的に取り組みました。

チケットや看板の制作、買い出し、担当決めなどもすべてお子さん達の手で行ない、それぞれが役割を持って取り組む姿が見られました。中には、以前別の教室で経験した活動を思い出しながら、準備を進めるお子さんの姿もあり、経験の積み重ねが活きている様子が見られました。

いよいよ夏祭り当日！

夏祭り当日は、まず調理からスタート！

唐揚げ、おにぎり、フランクフルト、クレープなどを作りました。

普段の調理活動の経験も活かされ、どのお子さんも手際よく準備を進めていました。

どのコーナーも大盛況で、教室中が笑顔であふれていました★



振り返りも大切な学びの時間

イベント後の週には、振り返りの時間を設けました。お子さん達は「もっとこうすればよかった」「次はこんなこともしたい」と、反省点や改善点を自分のことばで発表してくれました。こうした振り返りを通して、次への意欲や主体性が育まれていくことを実感しました。

今回の夏祭りでは、「自分達でつくる」という経験を通して、お子さん達は主体的に取り組む姿をたくさん見せてくれました。一人ひとりが役割を持ち、仲間と協力しながら準備を進める中で、達成感や自信を味わうことができたように思います。この体験が、今後の活動の中でも「やってみる」気持ちや仲間との繋がりに繋がっていくことを願っています。

職員インタビュー

2025年7月号よりこのコーナーでは全5回の予定で、「ことばの療育」を中心に支援を行っている教室の先生にインタビューした内容をお届けします！

ことのは4号館 言語聴覚士 S先生

保育現場での悩みが、「ことばの学び」の原動力に

元々は保育士として4年間、保育園に勤めていました。その中で、ことばの発達がゆっくりなお子さんを担当させていただく機会がありました。関わり方に悩んでいた時、外部の言語聴覚士さんが園に来てくださり、とても的確なアドバイスをいただきました。その際に教えていただいた、お子さんとの関わり方や、ことばを引き出す工夫は私にとって新しい視点ばかりで、「もっと自分にも知識があれば」という思いが強くなりました。もともとことばの発達には関心があり、言語聴覚士という仕事にも興味を持っていたことから、思いきって保育園を退職し、専門学校に3年間通って資格を取得しました。

一人ひとりの“ことば”に、しっかり寄り添える場所

言語聴覚士としての進路を考える中で、最初に目標としていた小児分野での支援を続けたいという思いがあり、放課後等デイサービスの仕事を選びました。就職活動時に教室を見学した際、**1対1で丁寧に個別支援を行なっている様子を見て、このようにじっくりとお子さんに関われる環境はとても貴重だと感じたことが、大きな決め手となりました。**また、職員数・利用児童数ともに多く、さまざまなケースに関わることができる点も、経験を積むうえで大きな魅力の一つでした。

ことばに寄り添う、ことのは教室の一日

ことのは教室では、午前・午後それぞれにミーティングを行ない、その日に関わるお子さん一人ひとりの様子や支援のねらいを、職員同士で共有しています。最近の変化やご家庭でのエピソード、健康面なども含め、さまざまな視点から情報を整理し、**チームで支援の準備を進めています。**支援の時間には、遊びに寄り添う関わりのほか、個室での1対1の個別支援も行なっています。ことばの理解や使い方を促す場面では、たとえば「冷蔵庫」ということばを教える際に、カードを見せながら単語をそのまま伝えるのではなく、「食べ物が入っている場所だよ」「冷やすために使うよ」など、**実際の使われ方や機能に着目しながら、ことばと一緒に意味を伝えるだけでなく、ことばのモデルを示すことで、語彙や表現が広がるよう関わっています。**支援後は記録を残し、終礼でその日の振り返りを行ない、気づいたことや対応を職員間で共有します。送迎時には保護者の方とのやりとりも大切に、**ご家庭と連携しながら、よりよい支援を目指しています。**



専門性と楽しさが両立する、ことのは教室の魅力

ことのは教室では、お子さんの発達に合わせた活動の中で職員がさりげなく関わりながら支援を行なっています。お子さんのその日の様子や興味に合わせて関わり方を工夫しているため、**支援の時間も“楽しい遊び”として自然に受け止めてもらえています。**職員は、ことばの支援だけでなく、お子さんとのやりとり自体が心地よいものになるよう、関係づくりをととても大切にしています。保護者の方から「**楽しいって言ってました**」「**また行きたいそうです**」といった声をいただくことがあり、そうしたことばや姿が、私達にとっても**日々の支援の励み**になっています。

『どうしたの』の代わりに『びっくりしたね』とことばに

支援の中では、「今、何が起きたのか」「どんな気持ちなのか」をその場でことばにすることを意識しています。たとえば、電車のおもちゃで遊んでいて列車同士がぶつかった時には、「**電車ぶつかったね**」「**びっくりしたね**」と声をかけるようにしています。**目の前の出来事や感情を大人が代わりにことばにすることで、お子さんが「ことばと状況」が結びつくきっかけになりますし、自分の気持ちを整理する助けにもなります。**お子さんの気持ちに寄り添いながら、「**ことばってこうやって使うんだ**」と感じてもらえるような関わりを心がけています。



伝えなくなった気持ちが、成長のしるし

構音の支援をしていたお子さんで、ある音がなかなかうまく言えず、ことばにするのが少し難しい様子が続いていた時期がありました。日々の支援の中で、少しずつ発音の練習を重ねていたところ、ある日、保護者の方が「『**言えるようになったよ**』って、自分から見せてくれたんです」と笑顔で教えてくださいました。そのお話を伺った時、お子さんが「**できるようになったこと**」が自信に繋がり、自分のことばで伝えようとした気持ちや、それを嬉しそうに受け止めてくださる保護者の姿が目につくたび、とてもあたたかい気持ちになりました。

手探りの毎日が、成長のきっかけになる

支援の中で難しさを感じるのは、やはり「この関わりで合っているのかな？」と悩む瞬間です。お子さん一人ひとりに合わせて関わり方を変える必要がある分、同じやり方が通用しないことも多く、常に手探りの部分があります。そんな時は、他の職員の関わり方を参考にしたり、相談したりすることもあります。「あの先生がやっていた声かけを試してみよう」と真似てみることも支援のヒントになりますし、場所やタイミングを変えてみるだけでうまくいくこともあります。その子に合ったやり方を探しながら、少しずつできることが増えていくのを一緒に喜べた時には、「この関わりでよかったんだ」と思えることもあります。